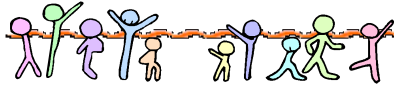


# ぼうさい



発行 平成26年1月10日 第10号  
NPO セーフティネット ぼうさい  
〒948-0003  
十日町市本町 6-3  
連絡先(代表 尾身誠司)  
電話 025-752-7353  
FAX 025-750-3670

E-mail tbk119@jeans.ocn.ne.jp

## 新潟県防災訓練に参加して

代表 尾身 誠司

明けましておめでとうござい  
ます。今年もよろしく願  
います。

平成25年度新潟県防災訓練  
が9月1日十日町市総合体育館  
周辺で開催された。「NPO セイ  
フティネットぼうさい」・「日本防  
災士会新潟県支部」として初め  
ての参加になった。毎年行われ  
てきたこの防災訓練もシナリオ  
どおりのワンパターンであつた  
が、各種災害に見舞われてきた  
新潟県は実戦を踏まえた訓練  
が必要と近年変化してきたよう  
である。

私たちNPOも災害に備えて  
の活動実績十年になるが、被災  
時の活動プログラムが完成して  
いなかった。発災時、自身も被災  
者、何が必要で何ができるか。  
十日町市など中小市町村での活

動は「避難所運営の支援」である  
と思つていた。今回の参加につ  
いては「避難所運営の支援・行政と  
の連携・自主防災組織との連携」  
を中心に検証した。みんな顔の  
分かる中でうまくいって当たり  
前、災害時はどこであっても、誰  
であっても活動できなければ意  
味はない。近隣市町村の災害時  
に適応可能な計画が望まれる。

平成26年4月「日本防災士会  
北信越連絡協議会」が発足する。  
当面は防災士のスキルアップが  
中心になるが、災害時の支援活  
動を念頭に入れて活動すること  
を期待している。

NPO を設立してから様々な  
災害に見舞われ、地域防災を語  
る中で「絆」の大切さはわかつて  
いる。しかし、昔ながらの「絆」  
を期待するのは難しい時代であ  
る。少子化でどうしても子ども  
を中心にした行事が少なくなり

若い人の近所付き合いが少なく  
なってきた。ただ嘆いているば  
かりでは解決にならない。「命を  
大切に」「困ったときはお互い様」  
この二つが備わっていれば都会  
であろうが、田舎であろうが  
「絆」の基本である。



9月1日新潟県総合防災訓練  
防災士会、NPOセーフティネットぼうさい合同ブース

各地防災訓練と本年事業を振り返って

事業委員長 藤木 忠雄

今年も十日町市との業務委託として自主防災組織の防災訓練指導や数多くの事業を行ったので、その活動を総括します。

今年には防災訓練や防災講話等の地域貢献が評価され「第44回十日町ライオンズ賞」の受賞と幸先のよいスタートとなった。

自主防災組織リーダー研修会では、我々が提供する訓練メニューを周知するため、消火器訓練、応急処置訓練及びAED取扱い訓練のデモンストレーションを行った。その結果、リーダーも訓練のイメージが出来、その後の防災訓練への活動につながり、6月中旬を皮切りに12月初めまで毎週のように指導を行った。

また自主防災訓練では予定者

数よりも多い会場、少ない会場と天候の影響や地域の温度差があったが、どこでも参加者は真剣に取り組み、時折笑いも出るなど指導側、受講側、一体となった訓練が出来たように思われた。

9月1日の新潟県防災訓練では防災士会新潟県支部からも参加を頂き、行政、民間が一体となった避難所等開設・運営訓練が行われた。十日町市による避難所の開設、我々NPOによる避難所運営、地域住民による運営委員会参画、段ボールメーカーの協力による避難所体験など、本番を見据えた行政との連携や運営状況の検証が出来た。

「2013めっかめっか」では初企画として、プレゼンコンテストが行われました。これは5分間ステージ上で市民団体が日頃の活動を発表し、最後に良かった

と思う団体に100円券を投票し、券の枚数で順位を競うものです。我々NPOは防災訓練指導の活動について、発表者の話に合わせて応急処置のデモンストレーションを行いました。併せて応急処置のやり方をプリントした風呂敷を作製し展示しました。その結果、「すごいアイディア!」「力強い味方」等、賞賛をいただき、優勝することができました。

受賞に始まり優勝で終わる、素晴らしい年でしたが、課題も見えてきました。訓練指導の回数が多い人と少ない人の格差が3倍もある言っことです。事業委員会としては、この格差を2倍以内にするために指導体制の見直しを進めなければならぬと思っています。何はともかく1年間、ご苦労様でした。



「めっかめっか」プレゼンコンテスト、優勝!!

各地防災訓練に参加して

研修委員 梶沢英和

3月末まで消防団員を拝命していた関係上、防災士としての活動は、まったく携わっておらず、まさしく『幽霊会員』でした。これからはできるだけ参加をしたいと思っております。今までの御無沙汰をお許しください。

消防団の時は、ただひたすら世のため人のためと、大上段に構えていたのでややウンザリでした。でもNPO活動では楽しく和やかに訓練等ができて(マジメにやっている人には申し訳ない)訓練会場で「今日は楽しかったでしよ」という声を耳にし、お手伝いをさせていただき、喜びを実感しました。

市街地町内の防災訓練のときでした。炊き出し訓練で、どう

しても釜の中の状態がどうなっているのか気になりましたら止まらなくなってしまうたご婦人がいました。3つある釜を片っ端から蓋をとっては覗いているではありませんか。僕が「あっ！蓋はとらないで下さいね」とお願いするとしばらくは落ち着くのですが、またしてもまたしても執念深く覗き込みます。炊き出し担当の彼女にしてみれば、失敗したら『切腹モノ』とでも感じているのでしょうか。「赤子泣いて



消火訓練

も蓋とるなというでしょう」と周囲の人からも言われ、納得のいかない面持ちでした。便利な世の中となった現在では、ご飯を炊くのは電気釜でオートマチックが定番です。この方は初体験であったのかもしれない。

こうして炊きあがったご飯は、おにぎりにされました。少し芯がありました。腹もちが良い炊き出しと良い解釈を試してみました。

また風向きが災いし、消火訓練の消火器の粉をモロに被り、絶妙な味わいでした。

飯炊きは、沸騰してから10分です。

また湯炊きという絶対失敗しない方法があります。それは、分量のお湯を沸かし、沸騰したら、パラパラとお米を入れるのです。こうすれば蓋をしなくても

OK！見ながら炊けます。おこげも香ばしくて美味しいのですが、『メッコ飯』はNG！です。



炊き出し訓練

## 「救命のリレー」バトンを繋いで

事業副委員長 福原芳昭

心肺停止状態の傷病者を発見した場合、まずは現場に居合わせた我々一般市民が迅速に119番通報をし、さらに可能であればAED(自動体外式除細動器)の手配を依頼し、胸骨圧迫及び人工呼吸を行う心肺蘇生の応急手当を行った後、救急隊に引き継ぎ、高度な救命処置と迅速な医療機関への搬送がなされ、医師へと引き継がれて高度な救命医療が行われる必要があります。

6月29日からの3日間、十日町地域消防本部で開催された「応急手当普及員養成講習会」を受講し、無事、認定証を手にすることができました。

17年前、長女が小学校に入学してから、保護者が監視する夏休

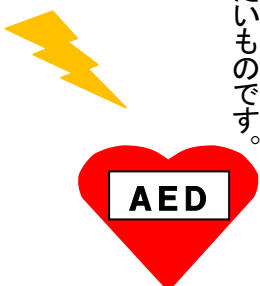
みのプール開放の為に行われる救命講習を毎年受け、防災士になつてからも普通救命講習や上級救命講習は受講し続けていました。その方法も解りやすく、やりやすくガイドラインが改定され、平成15年からはAEDが使用することができるようになりました。



受講者の前向きな気持ちを引出し、重要な内容を確実に理解してもらえよう説明し、体で覚えられるように実技を主体とした講習が必要です。それには常に自身の訓練の必要性を感じています。

一人でも多くの市民によって、救急の現場で心肺蘇生が実行され、AEDが使用されることによって、一人でも多くの尊い命を救えるような活動をしていきたいと思えます。

現場に居合わせた「市民」から「救急隊」へ、「救急隊」から「医師」へ、命のバトンを引き継ぐ「救命のリレー」を途切れさせない為にも、救命の第一歩者になりたいものです。



## 編集後記

自主防災組織への訓練指導も滞りなく進んできました。

今年度から、派遣先ごとにチームを決め、責任を分散させる方式が良かったと思います。

尾身博司さん、楳沢英和さんも指導員として加わっていただき、心強い指導体制となりました。

NPOの活動も十年となりました。「めっかめっか」プレゼンコンテスト優勝からも分かるように、一般の方へこの活動が知られるようになってきたのだと感じました。

(正)

年末年始と除雪車の出勤は、なく穏やかな年明けとなりました。

中越大震災から十年、節目の年としてさらなるステップアップを図る年になればと思います。今年是我的の干支です。(せ)